

がんばれ私、ありがとう家族

萩小・6 大井 美晴

「今年は美晴のために家族でがんばる一年。」

私が六年生になったときに母が言った言葉です。私がミニバスの練習や試合に専念できるように、家族みんなが協力してくれることになりました。

私は、二年生の秋からミニバスを始めました。初めは週に一回練習していましたが、高学年のチームになってからは週の半分はバスケットをしています。

私には三才の双子の弟と中学生の姉がいるので、習いごとの送りむかえやご飯の支度で、母は仕事が終わってから大忙しです。よく祖母も手伝ってくれて、体育館まで送ってくれます。家から少し遠いので、車の中でひと眠りして行きます。車から降りる時には、いつてらっしゃいと声をかけてくれます。

「よし。」
と気持ちを引きしめます。

父は仕事から帰ってくると、母とタッチ交代して弟たちをお風呂に入れたり寝かしつけたりします。母が私の練習の様子を見に行けるようにするためです。弟たちが「ママがいい」と泣くときがあるので、時々父のお迎えになるときもあります。

たまにしか来ない父にいいところを見せたいのに、私はコーチに注意されてばかりです。でも父は帰りの車の中で、良かったと思う動きをほめてくれるので、ほっとした気持ちになります。

私のミニバスでの目標は、『試合にたくさん出してもらえる選手になる』です。でも、なかなかそうなれません。頭では理解できている動きなのに、コートの中に入るとうまくできません。他の人のプレーを見ているときはよくわかるのに、自分の番になると気持ちに余ゆうがなくなってしまう。

父は全部自分で考えて行動するように、と言います。ほとんど怒らない父だけど、厳しいです。母は、よく怒るけど難しいことは言いません。できていないプレーはどうしてできないのか、どんな自主練したらよいか一緒に考えてくれます。自主練がいやになるときもあるけれど、母に「美晴、どうなりたいの」ときかされると、「やっぱりがんばろう。」

と、気持ちもどつてきます。
私の姉もバスケットをやっています。背が高くて、ドリブルも強くスピードがあるので、ついていくのに必死です。普段は口げんかばかりだけど、一緒にバスケットをやっている時は楽しくてあまり言い合いません。いにならないので不思議です。ファウルにならないように守るコツを教えてもらえて、心強いです。

夏休みに入ってから大会がありました。前日の練習でも、私は注意されてばかりで緊張してしまい、良い動きがほとんどできませんでした。きっと明日も少ししか出番はないだろうなと思いながら帰りました。いつも帰りの車の中で、母と反省点をふり返るけど、その日は話し合うのもいやで、不機嫌そうな態度をとってしまいました。母も話しかけるのをやめて、車の中が静かになりました。気まずいなあと思っていると、少しして母が話し始めました。

「美晴のデイフェンスは、オフフェンスが攻めづらくて良いデイフェ

ンスだよ。どんな時でも集中して、しつこいディフェンスを続ける。それがきつとチームのためになるから。オフセンスも強気で。パスができなかったらシュートに持ち込んで、ファウルをとるんだよ。毎朝フリースローの練習もしてきたんだから、きつと大丈夫。もつとやれたのにつて後で思うようなプレーは、なしだからね。」

のどの奥がきゆうつときつくなつて、お湯のような涙が止まらなくなりました。試合にたくさん出ることばかり考えていたけど、少ない出番でも私なりにできることを必死でやろうと思いましたが、

試合の日の朝、父がねぐせでボサボサの私の髪を、きれいに結んでくれました。母はたきたてのご飯でおにぎりを作ってくれました。家を出るとき、弟たちがウッドデッキから見送ってくれました。私はとてもきん張していました。

試合会場で見る人たちは、みんな私より上手に見えて不安な気持ちが強くなってきました。試合が始まりました。一試合目、百点ゲームで勝ちました。私も得点を決められましたが、もう少しディフェンスでねばれた気がしました。二試合目は相手チームに勢いがあつて、どんどん攻めてきます。止められないかも、と気持ちがあせりました。

前日の夜の車の中のことを思い出しました。私のしつこいディフェンス、強気のオフセンス、何が何でもやろうと思いましたが、むしやらでした。シュートに持ち込んでファウルを取り、フリースローになりました。一本目は外れ。二本目の前、母の声が聞こえました。

「美晴なら決められるよ、大丈夫。」

コーチに教えてもらったねらい方を順番に確認して、いつものペースで投げました。入った。気持ちが悪くなりました。その後のシュートの時もファウルを取り、2本ともフリースローを入れることができませんでした。チームメイトががんばって得点してくれていたの、私は相手が得点できないよう攻めるようなディフェンスをしようと、最後まで相手に集中しました。チームは二試合目も勝つことができました。

試合後、他のお母さんたちから、

「美晴のガッツあるプレーが、みんなの良い刺激になったね。」

と言ってもらいました。私も、自分なりにがんばれたと感じました。

私がここまでがんばれたのは、支えてくれている家族のおかげです。練習の日は家でがまんすることが多いのに、笑顔で見送ってくれた弟たち。細かい動き方をアドバイスしてくれた姉。私のいいところをちゃんと見てくれる父。そして、仕事も家事もしながら、私の練習も気持ちもサポートしてくれる母。ありがとう。六年生のあと半年、もつとがんばりたいです。